

新しい転換点にある日中関係

日本華人教授会議代表、NPO 中日学術交流センター代表理事
朱建榮

今、日中関係は新しい転換点に差し掛かっていると思います。

経済関係だけでなく人的交流の面でも、日中間の交流はかつて考えられなかったほど密接になっています。在日中国人の数は50万人を超え、日本の各大学に勤めている中国人の教授・准教授は800人を超えています。また、日本が世界に誇るハイテクの開発研究所に勤めている教授クラスの中国人研究者も数百人に上っています。

他方、中国在住の日本人は20万人近くになっており、中国に留学している日本人留学生も2万人を超えています。また、観光で中国を訪れる人も年間400万人を超えています。

このように日中間の経済関係、人的交流が密接になっている中で、2003年1月に発足しました私たち日本華人教授会議は、日中の相互理解増進と関係強化に、知的な面で貢献することを目指して活動してまいりました。

今年、日中関係は更なる発展を図る転機を迎えております。安倍前総理の訪中で、日中間で「戦略的互惠関係」の樹立について双方が合意いたしました。その後日本では、福田新政

権が誕生し、中国では、第十七回党大会が開かれました。

このよきタイミングに合わせて、中国からは崔天凱新大使が赴



任されました。あとでお話があるかと思いますが、今日の基調講演は新大使の日本における初の公式活動となります。私たちとしても非常に光栄に思っている次第です。

このような転換期に、日中間の戦略的互惠関係をどのように充実化し、具体化していくかということは、日中両国の有識者にとっての、宿題であり、また責任でもあると思っています。

私たちの今日のシンポジウムは、日中間の互惠関係をどのようにして国民に理解され、支持されるものにするか、また、アジアと世界にどのように貢献していくかを巡って討論するもので、その討論の成果を踏まえて、両国政府やマスコミにさまざまな提言と提案を出させていただきたいと思っています。